



海外研修便り

2014年8月5日

川股 晴奈

アメリカに来て、約2ヶ月が経ちました。8月に入ってから暑い日は少なくなり、過ごしやすい気候になりました。徐々にこちらの生活にも慣れ、観光にもいけるようになりました。

研修についてですが、7月中旬より病棟で行われているプログラムの見学を始めました。月曜日から金曜日まで病棟のプログラムにあわせて参加させていただいています。

最初に参加したプログラムは「Creative Writing」という、言語的な表現をするスキルを身につけるためのプログラムでした。依存症の人々はそのスキルが不足していることが回復の妨げになるため、訓練していくことが必要であると、セラピストの方がおっしゃっていました。このときは‘俳句を作る’というテーマのセラピーで、患者さんたちは言葉選びを楽しみ、入院や、断酒への希望あふれる作品を作っていました。そのほかにも、ワシントンD.C周辺への遠足や運動、レクリエーション、栄養指導、牧師さんの講義、リラクゼーショントレーニング、社会復帰のためのリハビリなど、他職種が関わっている日課がたくさんあります。



看護師がメインで関わっているものは、認知行動療法や酒歴発表、ミーティングなどがあります。こちらの看護師は、白衣ではなく私服で業務をしています。必要だと思われるときには白衣を着るそうですが、「研究を受けるところだから、リラックスすることが大切でしょ?」とおっしゃっていました。その言葉通り、病棟では熱帯魚を飼っていたり、患者と看護師が一緒に食事をして談笑していたりと、とても温かい雰囲気があります。私は一緒に朝食を食べている場面を見てとても驚きましたが、患者も看護師もお互いの話に大きく相槌を打ち、身振り手振りも交えて楽しそうに話している様子はとても印象的でした。

まだまだ見学できていないプログラムもあります。それぞれのプログラムを理解できるよう頑張りたいと思います。



筆者と NIAAA スタッフ